

1. 科目名 (単位 数)	心理検査法演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3354
2. 授業担当教員	大島 朗生		
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理的アセスメント/心理検査法」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。		
8. 学習目標	1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	演習で取り扱う「知能検査」と「性格検査」についてレポート課題を課す。 レポート課題は全部で2本程度課す予定でいる。		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 津川律子・遠藤裕乃 編『心理的アセスメント (公認心理師の基礎と実践 第14巻)』遠見書房、2019。 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。 ※心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費 (検査用紙代等) が必要な場合がある。 委細は開講時に説明する。</p> <p>【参考書】 村上宣寛・村上千恵子 著『三訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房、2019。 上野一彦・松田修・小林玄・木下智子 著『日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント - 代表的な 指標パターンの解釈と事例紹介 - 』日本文化科学社、2015。 アウレリオ・プリフィテラ、ドナルド・H・サクロフスキー、ローレンス・G・ワイズ 編/上野一彦 監訳/上野一彦・バーンズ亀山静子 訳『WISC-IV の臨床的利用と解釈』日本文化科学社、2012。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 授業に熱心に取り組み、積極的に発言・発表をしたか。 2. レポートは、演習・検査を踏まえて、要点を分かりやすくまとめる力がついたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 受講態度・参加姿勢 総合点の 30% 2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート 総合点の 40% 3. 科目終了レポート 総合点の 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	心理的アセスメントと心理検査について、さらに深く理解することを目的としている。 事例を検討することにより、対応の仕方や援助方法についても一緒に考えていきたい。 受講生の興味関心によっては、他の心理検査についても取り扱う予定である。 心理検査に興味を持って、さらに深く学んでみたいという意欲ある学生の受講を期待する。		
13. オフィスアワー	授業開講時に周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 演習の目的・評価方法の説明	事前学習	教科書の目次を一読して、演習用ノートを作成すること。参考書は必ずしも購入する必要はないが、可能な限り図書館等で借りるなどして目を通しておくこと。
		事後学習	シラバスの再確認。授業ルールや学習目標と内容を理解する。
第2回	心理検査の実施にあたって1 心理検査を施行するにあたって留意すること	事前学習	初回面接時に注意しなければならないことや想定される課題をノートにまとめる。
		事後学習	初回面接の手順をノートにまとめ、グループメンバーで面接演習を行う。
第3回	心理検査の実施にあたって2 個人情報と守秘義務	事前学習	心理検査の倫理規定について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	グループ討議の内容を振り返り、要点をノートにまとめる。
第4回	質問紙法にもとづく検査の演習1 5因子性格検査 理論を学ぶ	事前学習	性格理論のうち、特性論についてノートにまとめる。
		事後学習	授業中にまとめたノートと配布資料を熟読し、要点をノートにまとめる
第5回	質問紙法にもとづく検査の演習2 5因子性格検査 実施手順を学ぶ	事前学習	配布資料を熟読し、わからない用語を調べてノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーと実施手順について練習をする。

第6回	質問紙法にもとづく検査の演習3 5因子性格検査 解釈を学ぶ	事前学習	事前資料を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめた事例について、文献等からさらに理解を深める。
第7回	知能検査の演習1 Wechsler 検査の理論を学ぶ	事前学習	Wechsler 検査の理論について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	知能の定義と構造をノートにまとめる。
第8回	知能検査の演習2 Wechsler 検査の実施手順を学ぶ	事前学習	Wechsler 検査の実施手順について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	グループ討議の内容を振り返り、ノートにまとめる。
第9回	知能検査の演習3 Wechsler 検査を実施する	事前学習	Wechsler 検査の実施方法について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーと実施手順について復習をする。
第10回	知能検査の演習4 Wechsler 検査の解釈を学ぶ	事前学習	Wechsler 検査の解釈について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	VCI、PRI、WMI、PSIの高低が事例のどのような認知特性に影響を及ぼしているかを調べておく。事例毎のプロフィールをノートにまとめる。
第11回	知能検査の演習5 Wechsler アセスメント・レポートの書き方	事前学習	事前配布資料を熟読し、総合的解釈とその留意点をまとめる。
		事後学習	総合的解釈をもとに、アセスメント・レポートをまとめる。
第12回	知能検査の演習6 事例検討① 小学生	事前学習	事例を事前に検討しておく。
		事後学習	支援方法のうち、参考になる図書を1冊以上熟読する。
第13回	知能検査の演習7 事例検討② 中学生	事前学習	事例を事前に検討しておく。
		事後学習	支援方法のうち、参考になる図書を1冊以上熟読する。
第14回	アセスメント・バッテリーを組む 性格検査・知能検査を組み合わせる	事前学習	テストバッテリーについて、概要をノートにまとめておく。
		事後学習	テストバッテリーについて、グループで振り返り作業を行う。
第15回	まとめ 心理検査法演習で学んだことを振り返る	事前学習	これまで演習で扱ってきた心理検査についてまとめる。
		事後学習	これまでの学習内容について、ノートを見て振り返り、理解できているか確認する。